

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077300160		
法人名	有限会社ユリックス		
事業所名	グループホームゆり苑		
所在地	福岡県うきは市吉井町生葉705-1 (電話) 0943-75-9520		
自己評価作成日	平成 25 年 6 月 22 日	評価結果確定日	平成 25 年 9 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

南に耳納連山を望む田園の中、住宅地に隣接しており、閑静な環境の中に立地している。ご家族の方がよく面会に来苑されたり、近所の子供が遊びに来られたり、いつでもどなたでも気軽に来ていただけるような地域に開かれた事業所です。隣接する道路は車も数えるほどしか通らず、安心して散歩できるので、閉じこもり防止のため積極的に外出支援を行っています。また、買い物を希望される利用者様には付き添いしながらではありませんが、買い物支援も行っています。地域の中で、認知症高齢者が安心して家庭的な生活を送れるように本人重視の「ゆとり・ゆったり・ゆっくり」した安全で健康的な生活を提供したいと考えています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 7 月 12 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅環境の中に、緑の屋根で2ユニットの落ち着いた平屋建てで、朝顔のグリーンカーテンがなんとも住み慣れた自分の家を思わせる事業所である。「利用者がいつも主役・主体の生活を、ゆとりと尊厳をもってゆったりゆっくり過ごしてもらおう」ことを常に意識し、管理者と職員は、この理念を共有して実践につなげている。「自分の親だったら、自分が利用者だったらと考えて介護、見守りしている」とホーム長の言葉があり、人間の尊厳が大切にされている。ボランティアの参加や気軽に立ち寄れる地域に密着した認知症高齢者の生活の場として、期待される事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆり苑の理念を周知徹底する為、各ユニットに貼り、職員全員で、実践に取り組んでいる。	開設時から独自の理念を作り上げている。地域の中の一員として、「利用者がいつも主役主体の生活を、ゆとりと尊厳をもってゆったりゆっくり過ごしてもらおう」よう意識して接している。月末のカンファレンス・月始めのリーダー会で理念について振り返り、実践に向け日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域での道路愛護には進んで参加し、地域の方、近くの託児所の幼児との交流に努めている。	地域活動の道路愛護、資源ごみ集めや道路へのコスモスの植え等に参加している。地域行事の敬老会には、家族の協力で参加している。事業所主催では花火大会・敬老会・クリスマス会等をイベント行事にしている。中学校の福祉体験学習の受け入れや、託児所の子供たち、近隣の高齢者が訪ねる等日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症を抱えてあるお嫁さんなどに認知症の理解・対応の仕方等実践を通じて知り得た知識・技術を広めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開き、利用者・家族会の代表・民生委員・区長・市介護保険課・包括支援センター等の意見を聞き、介護の質向上に努めている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を定期的で開催している。利用者やサービスの実際・今後の活動計画を報告し、委員からは意見・要望・質問等をもらい、サービス向上に活かしている。委員の声かけで、近所の託児所から10人くらいが遊びに来るようになり交流が生まれた	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市介護保険課・地域包括支援センターへ運営推進会議に参加依頼をし、サービス向上等の助言を頂いている。	運営推進会議時には、毎回、行政から「サービスの要望と助言」を聞くようにしている。その中で、「運営推進会の会議録を誰でも見られるように玄関に置くように」との意見があり、実践している。行政窓口には月2～3回報告・相談等で出向き、協力関係を築いている。地域包括センター主催の事例検討会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を受けている人はいなくて、ベットの柵については所定の場所のみで拘束に当たるような設置はしていない。	日中、居室玄関の施錠はなく、玄関はセンサーを設置している。職員は、身体拘束により利用者の人間性を傷つけ不利益をもたらす事を理解している。言葉による抑制がなかったか等も含めて、職員同士、見守り強化に努めている。一部の職員が外部研修に参加し、伝達研修をしている。テキスト・研修報告を整備している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、職員会議の折、尊厳を支えるケアと共に常に話し合い。防止徹底を実践している。又、入浴時には全利用者の身体を目視し、あざ等の発見に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	うきはグループホーム部会等、外部研修や苑内での勉強会に講師を招き権利擁護に関して学ぶ機会を持ち。必要とされる利用者がそれらを活用できるよう努めている。	権利擁護に関する制度に関しては、契約時に利用者及び家族に説明している。職員は外部研修（グループホーム部会）等で学び、さらに伝達研修をし全職員で情報の共有に努めている。テキスト・パンフレット・研修報告を整備している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には十分説明し、納得して頂いた上契約するようにしており、契約後においても、いつでも相談できる事を伝え、理解・納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内に意見箱を置いたり、定期的に苦情相談申し入れ書を同封している。又家族面会時にはなるべく話しやすい雰囲気作りえを心がけその上で要望・意見などを引き出す様努め、要望等があれば職員会議などで話し合い、運営推進会議等で行政の助言をもとに改善している。	「結いの会」と称して毎月20日、どこに行きたいか、何を食べたいか等、利用者と職員の話し合いの場を設けている。饅頭・そうめんを食べたいや、芝居を観に行きたい等の要望には、家族の協力も得て、スタッフと一緒に出かけている。また、利用者だけの家族会が開かれるなど、利用者・家族の要望を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議を月1回開き、又カンファレンス時にも話し合い、職員からの意見や提案を汲み取り、できるだけとりいれている。	管理者は職員の気付きや考えを運営に取り入れている。職員からのコスト削減に対する意見やケアの事、利用者同士の席替え等、毎月1回のカンファレンスで意見交換し反映させている。自己評価も全職員で取り組んでいる。日常的に2ユニット間の交流がある。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務表作成時には、親の介護・孫の世話等休み希望日を聞き入れ作成、勤務しやすい環境を整えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとしして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	契約前には十分説明し、納得の上契約するようにはしており、契約後においても、いつでも相談できることを伝え、ご家族にも安心して預けていただける様努めている。	採用にあたっては、ハローワーク・職員の人づて等で、年齢や性別を理由に排除していない。また、職員は介護福祉士やケアマネジャー等の資格取得にも取り組んでおり、自己実現の為の取り組みを事業所も推進している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	苑内に意見箱を置いたり、定期的に苦情相談申し入れ書を同封している。又家族面会時にはなるべく話しやすい雰囲気作りを心がけその上で要望・意見などを引き出す様努め、要望等があれば職員会議などで話し合い、運営推進会議等で行政の助言をもとに改善している。	職員は、人権に関する内・外研修に参加している。外部研修後は伝達研修を行い、カンファレンスで学習し人権教育・啓発活動に取り組んでいる。テキスト・パンフレット・研修記録がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内では勉強会を年12回。苑外研修があれば、対象となる職員が受講できるように努めている。働きながら資格取得できるよう配慮もしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム部会等で他の事業所との交流に努め、事例検討会等に参加し交流を深めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から来苑して頂いたり、事前面談等で訪問し、顔なじみになることで少しでも不安を取り除き、安心して苑での生活に入って頂けるよう心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様同様、入居前から来苑して頂き、ゆり苑の雰囲気等を感じて頂き、話を多く持つことで、家族の不安や要望を引き出すよう心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が来苑して入居相談をしたときに、まだ軽い認知症で他のサービスで在宅生活が可能と判断した時は、家族との話し合いのもと、他のサービスの利用につなげ、入居時期を遅らせることもある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族・肉親が一番であるという事を頭におき、職員は共に生活をする疑似家族という事を心掛け、支えるだけでなく、利用者にもできるところはして頂いたり（例えば食後のテーブル拭き・モップ掛け等）、何でもない話と一緒に笑うなどして暮らしを共にするよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と連絡を取り、支援に努めている。例えば定期的な通院の場合も、本人の身体状況・精神状況を知って頂く為にも、家族にできるだけ一緒に行って頂いてる。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	甥や姪宅への外泊も自宅家族の承諾を得て、外泊してもらうこともある。又、知人の面会も受け入れており、ゆっくりとくつろいで本人と話せる環境づくりを支援している。入居前に加入していた敬老会から誘いがあれば、外出支援等をしている。	職員は利用者の馴染みの場所や人について関係が継続できるよう支援している。甥や姪宅への外泊、帰宅、家族との墓参り、生まれ育った実家を訪ねてみる等、本人の希望や思いの把握に努め援助を行っている。友達や兄弟、近所の方の訪問も積極的に働きかけている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が同じソファに座れるようスタッフのほうで心配りをし、心が安らぐよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体の状態が悪くなり入院された時は、面会に行き、家族に容態等をお知らせしている。また亡くなられた時は葬儀に参列する。他施設に転居された時は行き先の関係者に本人の状況、ケアの工夫等を詳しく伝えている。家族の許可があれば出かけた折に、利用者が会いたいとの希望を持っている方へ面会している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	開設当時に比べ、介護度が高くなってきており、意思疎通も難しくなっている利用者が多くなってきているが、本人の思いをなるべく聞き入れるよう心掛けて、職員のベースにならないよう努めている。	職員は日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、思いや希望、意向等の把握に努めている。利用者の言葉や表情、拳手やポンポンとたたく手での合図等から利用者の真意を推し測って確認している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当ケアマネージャーからの情報をカンファレンス等で話し合い、職員全員が共有し、利用者の生活歴やサービス利用に至った経過を知り、利用者の暮らしを尊重するよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に担当を決め、その方に合ったサービスを模索し、変化があればカンファレンスを開き、その都度現状に合ったサービスが提供できるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランはカンファレンスを開催し、本人や家族、ケアマネージャー、看護師の気付きや意見等をもとに、全スタッフで話し合い、作成した介護計画を共有できるようにしている。また、モニタリングも適時行っている。	本人や家族には、日頃の関わりの中で思いや意向を聞き、職員全員で気付きや意見を出し合い、一人ひとりその時点にそった個別具体的な計画を作成している。3ヶ月毎のモニタリング・6ヶ月毎または状況変化に応じて随時介護計画の見直しを行っている。介護計画書に家族等から署名押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフに出勤したらまず業務日誌・ケース記録に目を通し、利用者の情報を頭に入れ、業務につくことを実践している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は数人訪問マッサージを受け、痛みの緩和につなげている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅での暮らしの継続を支え、豊かな生活が楽しめるように、女学校の時に行った場所や花屋、商店街等の外出支援をしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により今までのかかりつけ医の受診継続ができるよう、通院付添い等の支援をしている。また、二週間毎のかかりつけ医の往診を受け、安心できるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医には、2週間に1度の往診を受けている。家族等と基本的な受診時の通院介助の方法等について話し合い合意している。また、家族の状況に応じ柔軟に対応している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化があれば、すぐに看護師に報告し、適切な処置を依頼する。また、ケース記録にも詳細に記入し、いつでも変化が分かるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院すれば見舞いに伺い、担当医・ソーシャルワーカーと密に情報交換を行い、退院後にそなえている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聞きながら、苑で出来ること・出来ないことの説明をし、終末期にあっては密に連絡を取り、家族に悔いが残らず、満足して頂けるよう心掛け、本人や家族の支援に努めている。	重度化や終末期のあり方について事業所の対応方針が明文化されており、本人や家族の意向を踏まえ、医師と連携を図り、利用者や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度消防署より来て頂き、救急訓練・蘇生法等の訓練を受けている。急変時の連絡方法についてもスタッフ全員が共有している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練・避難訓練は年2回行い、避難方法や場所の確認をしている。特に夜間を想定した訓練を重視して行っている。訓練は近所の方や区長、民生委員に参加の声掛けをしている。	マニュアルを作成している。消防署の協力を得て消火器の使い方・夜間を想定した避難訓練等を行っている。運営推進会議や近所へチラシで呼びかけ、参加を得ている。非常用飲料・食料・備品は事業所傍らに倉庫を設置し、直ぐ持ち出せるよう備蓄している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ちゃん付けは禁止にし、苗字をさん付けで呼ぶことにしている。（現在同苗字一組あり、この方のみ名前をさん付けで呼ぶ。）	職員は利用者の誇りやプライバシーを損なわない様、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。また、他の家族や外来者に対して、本人のプライバシーに関して話さないことを徹底している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ラジオ体操・レクリエーション・外出・ドライブ等すべて強制しない。気分が乗らないとき時の参加は本人に任せるが、声掛けは常に行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間が短い人、長い人に合わせて片づけをしたり、昼寝をする人、テレビを見たい人等と一人ひとり違う生活スタイルを尊重した支援に努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節により衣替えをし、なるべく本人がその日の洋服を選べるようにしている。訪問美容室を利用したり、入浴・洗顔後になじみのクリームを塗ったりと身だしなみに配慮している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや蒔の皮むき、梅干し作りの下ごしらえ等をやったいただき、本人も調理に参加することで食事がより身近に感じられるよう支援している。また、テーブル拭きは担当して下さる利用者が決まっている。	業者からの取り寄せ食材に加え、近隣や利用者家族、職員の持ち込み、事業所で収穫した季節の野菜や果物等を加え、それらが話題にもなり楽しい雰囲気となっている。利用者とは職員は同じ物を同じテーブルで、必要な利用者にはさりげない介助をしながら食事している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増減・食事量・水分摂取量チェック等を行い、本人の体調を把握したうえで、食生活の支援をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員に歯科衛生士がおり、指導のもと毎食後、口腔ケア介助を行い、自分でできる方、介助が必要な方全員の口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレへの声掛けを行っている。失敗も多いが、なるべくトイレでの排泄に心掛けている。	職員は利用者一人ひとりのサインを把握し、さり気なく支援している。尿意のない利用者には排泄チェック表を利用し時間を見計らって誘導している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類を多く摂取し、おやつ時にはヨーグルトを摂取するよう心掛けている。また、レクレーション時お腹を膨らましたり、へこましたりする調の運動も取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	体調等を十分に配慮し、毎日入りたい方は毎日、隔日が好きな方は隔日に、入浴できる体制を整えている。入浴に関して、本人の自由に行っているが、声掛けは毎日行っている。	毎日の入浴となっている。仲の良い利用者が一緒に入浴する等、入浴が楽しいものとなるよう配慮している。入浴拒否の利用者には「家族が着替え持ってきてよ」等言葉かけの工夫や、タイミングを図り2日に1回は入浴支援をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今のところ極端な昼夜逆転の方はおられず、夜はよく休んで頂いている。昼間2、3名の方は居室でお昼寝されている。また、ソファで居眠りされているときは、テレビの音量を小さくしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当する利用者の服薬状況は全員で把握し、状態等の変化があれば、看護師・主治医につなげ、支持をもらい、服薬支援を適正に行うことで利用者の健康管理に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ごとに役割が自然と決まり、テーブルを拭く方、モップをかける方、洗濯物をたたむ方・干す方、それぞれに自分の仕事として取り組まれている。また、お花の先生だった方には、お花があればいけて頂くなど楽しんで頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に添えるように家族の方を巻き込みながら、時には勤務時間外スタッフ等の協力により、一人ひとりの希望に添えるよう努めている。	天候や、利用者の体調・希望に応じ外出支援をしている。毎日の散歩のほか、花見には弁当持参し、利用者全員でのドライブや少人数での外出・買い物等、家族と協力しながら支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者の方には、家族了解の上で所持して頂き、自由に使ってもらっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい利用者の方には、スタッフが取り次ぎ利用して頂く。また携帯を所持している利用者には使用できるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングテーブルから廊下、台所、トイレ、浴室と一望できる造りで利用者がスタッフの姿を見ることもでき、台所で調理しているのもわかる。また、利用者の味見役もいる。照明をおとし、落ち着いた感じを出している。	共用空間からは耳納連山見え、テーブルには季節の花が生けられている。壁面には利用者の作品、ぬり絵・切り絵、イベント時の写真等が貼られている。ソファや畳の間があり、居心地よい空間となっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング畳室でお昼寝をされる方は決まっており、畳の上で眠ることができる。二つあるソファはそれぞれ座る場所がほぼ決まっており、本人の安心できる医b所になっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室に本人の馴染みのたんす・テーブル等を置き、カーテンや布団も自宅から持参して頂いてる。壁には家族の写真を貼り、本人の部屋であることを認知して頂けるよう工夫している。	利用者それぞれに趣きある木製の表札があり、床は畳かフローリングかを利用者の好みにより選ぶ事が出来る。寝具、筆筒、テーブル、テレビや時計等使い慣れた物が持ち込まれ、壁には家族の写真や自分の作品等を掲示し、居心地良く過ごせる配慮がある。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人・家族に畳かフローリングを選択して頂いてる。車いす自走の方には居室内をフローリングにして自由に出入り出来るよう工夫している。また、利用者の状態や希望に合わせ電動ベッドを使用し、立ち上がりを楽にしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える場所に理念をはり、お互いに「ゆとり・ゆったり・ゆっくり」を意識し、日常的に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の道路愛護に積極的に参加し、地域との交流に努めている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中、市役所や民生委員の方へ苑で出来ることがあればと常に話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において問題点を話し、出席者の意見を仰ぎながら、話し合いにより、より良い対応へとサービス向上にいかしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市介護保険課、地域包括センターへ運営推進会議に参加依頼をし、サービス向上等の助言を頂いている。地域包括支援センター等の主催する事例検討会にもできるだけ参加するようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、夜間のやむを得ない拘束については家族に納得して頂き、同意書をいただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	研修等に積極的に参加し、スタッフ同士、言葉使いや態度が虐待に結びつかないように口頭だけでなく、可視化しスタッフルームの壁に貼り注意し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についてのパンフレットを玄関に用意し、勉強会を設け、スタッフへの理解にも取り組んでいる。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分説明し、納得の上契約するようにしており、契約後においても、いつでも相談できる事を伝え、ご家族に安心して預けて頂く様努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、利用者とスタッフ間での話し合いの場を毎月20日に設けている。また、ご家族代表に運営推進会議に出席して頂き、意見や要望など話せる場をもうけている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時意見・要望を聞くよう改善へ努めている。毎月のカンファレンスを設け、意見交換している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	例えば、金曜日に夜勤入りが都合がいいなど、職員の勤務表作成時には親の介護や孫の世話が出来よう、定期的な曜日希望等の意見を聞き入れ作成するようにして、勤務しやすい環境を整えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	スタッフそれぞれに役割を分担し、ホームの運営に役立てている。勤務もスタッフの要望を聞き自己実現の支援もしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会を開いたり、研修等には積極的に参加するよう促し、その為の勤務編成も考慮している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内では勉強会を毎月している。苑外研修があればその都度出席できる職員を募り、受講できるように努めている。働きながら資格取得できるよう配慮もしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム部会等での事業所との職員との交流に努め、事例検討会にも参加し交流に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談に伺い、ホームを見学して頂き、本人の思いや要望、ご家族からの情報聴取にも時間を作って頂き、不安が解消出来るよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めていることを理解し、ホームとしてどのような対応が出来るか十分話す機会を設け、ホーム見学時に不安のないよう話をきいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り対応するが、場合によっては他の事業所のサービスも含めた適切な対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩と仰ぎ、支援する側・される側という意識を持たず、色々な思いに共感出来るよう向き合っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や出来事を毎月担当者がお便り（写真付）で伝え、一緒に支えているという思いで支援している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊や外出、ご家族の面会をお願いし、かかりつけの病院へは引き続きご家族の協力をお願いし、利用されている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶（おやつ）、食事の時間はスタッフも一緒に席につき、なるべく気の合う利用者同士を同じ席にし、会話が弾むようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居になった方には訪問したり、亡くなられた時は関わったスタッフ全員で葬儀に列席するようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの思いを重視し、日々の声かけ、スタッフ間の情報のやりとりにて把握を努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に今までの生活歴を聞き、家族に書いてもらった生活歴シートや情報提供書をスタッフ全員で把握し、サービスの方向を検討している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの出来ること、楽しいことに注目し、プランをスタッフ全員で決め、状態に応じ変更している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には本人や家族の要望を聞き、担当者・スタッフ全員で情報を出し合い、計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録に毎日の様子や出来事、言葉等を記録している。スタッフが確認することで情報の共有をし、計画の見直しにも活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制をとり、2週間に一度の往診や受診を受け、重度化しないように看護師を配置している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の立ち入り検査や訓練、民生委員と意見交換、また、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の往診を受けている、また、希望や紹介状に応じて、他の医師の受診にも同行している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護スタッフを配置しており、健康管理や状態変化に応じた支援をしている。申し送りや指示を的確に把握し連携をとっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者が安心できるよう面会し、家族、病院関係者とも話し合いながら、対応可能な段階で早く退院できるよう働きかけている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に伴い、家族の意向を確認し、スタッフや主治医との話し合いで対応できる最大のケアを行うことを説明している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命救急の訓練を定期的に受けている。緊急時のマニュアルも作成している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力にて避難訓練や消火器の使い方など訓練を受けている。近所への協力もお願いしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊重した介護や本人の思いに共感し、さりげない介助や言葉かけ、対応に配慮している。スタッフ守秘義務を徹底している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい言葉で話し「はい」か「いいえ」だけでも自分の思いで選べることを大切にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など一人ひとりの思いを大切に出来る限り希望に添えるよう対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容サービスの連携、入居者の希望に応じて整髪している。誕生会等には化粧をし、身だしなみへの意識を保てるようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ等、簡単な作業を手伝ってもらっている。スタッフも同じテーブルで食事をし、茶碗におかずを移したり、食器を動かすなど食べやすいようサポートや介助をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、水分量。食事摂取量のチェックを行っている。食べる量は必要に応じ一人ひとりに合わせている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけ、必要に応じ介助を行っている。週に一度は洗浄剤につけている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェックし、誘導してトイレでの排泄を促している。起立・歩行運動を行い下肢の筋力が衰えないよう支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分の摂取を促している。水分チェック表を記入し、改善されないときは主治医に相談し、薬の処方をしてもらっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日バイタルチェックを行い、入浴が可能かどうか判断。最初の声かけで拒否があるときは、時間を変えタイミングをみて再度声かけし、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は散歩や外気浴を行い、軽く運動をしたり、昼寝の時間を設け、ゆっくり休息できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理はスタッフがやっている。処方箋をケース記録にはさんで、スタッフは内容が把握できるようにしている。服薬は服用まで見守るようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえ・洗濯物たたみ・テーブル拭き等をして頂いている。買物日には食べたい菓子等を聞きおやつで、また、歌等DVD鑑賞で楽しんで頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩やドライブ、お花見に行ったり、時にはお弁当を持ってゆっくり過ごして頂く。希望があるときはスタッフが同行し支援している（家族との外出や買い物など）		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持・管理できる入居者は降りません（ちくごユニットのみ）		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望により家族に電話をかけたたり、取り次ぐ支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家事の音や懐かしい音楽、壁には毎月飾りつけを変えたり、生花や入浴時にはゆず湯など生活感・季節感を感じることが出来るよう工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、畳にはこたつ、テラスにはベンチを設け、一人で過ごしたり、横になったり出来るよう居場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は希望に応じ畳かフローリングになる。たんすや布団、日用品等は使い慣れたものを持ち込んでいただき、居心地よく生活が出来るようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない平屋造りで、廊下やトイレ、浴室には手すりを設けている。廊下も直線で死角を作らない構造で危なくないようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない